

1866  
2008  
6/1

# 府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合  
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59  
電話 06(6941)0351・内線3740  
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541  
Eメール info@fusyokuro.gr.jp  
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp  
発行人/平井 賢治 編集人/西村 浩美  
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

第53回  
**大阪母親大会**  
6月8日(日)10:00~  
大阪府立青少年会館  
プラネットホール



## 子どもも親も泣かせる ことはやめてほしい

# 府民・労働者700人が府庁を包囲

5月29日、大阪城公園・教育塔前で「財政再建プログラム試案」撤回、くらし擁護・財政再建の面立を求め、5・29緊急集会&府庁包囲デモ」を開催しました。大阪府連、府労組連、府民要求連絡会が共催で取り組み、700人を越える府民・労働者が集会に参加し、府庁を包囲するデモ行進を行い、府民生活を破壊する「財政再建プログラム試案」の撤回を求め、怒りのシュプレヒコールを府庁に響かせました。

早朝から大阪府連の「爭議支援総行動」が取り組まれ、その熱気にもつづまれ「PT試案」撤回を求める緊急集会が行われました。

集会報告にたった前田府民連事務局長は「PT試案」が出されてすぐに府民や関係諸団体から反対の声が沸き起こり、経営者・理事者、施設を利用する府民、関係団体や労働組合が一丸となった運動がかつてなく広がり、各種署名が

60万筆を超えていることが報告されました。また、前田氏は「人件費削減」問題にふれ2つの重大な問題があるとし、ひとつは事業の廃止・削減とされている補助金に多く含まれている人件費が削減されること

で、特に最低賃金で働かざるが非正規労働者への影響が大きく、非正規問題が大きな社会問題のもと、大阪府の行為で「ワーキング・プア」を拡大する危険性が高いこと。もうひとつは府職員の人件費を大幅に削減することは大きな問題として、公務の仕事はマンパワーサービスであり、人と仕事、府民サービスが切り離せないものだから人件費を削減することは府民サービスの水準を下げるものだと訴えました。

集会に参加した山本・小松両府会議員(日本共産党)を代表して山本議員から、「PT試案」に対し各会派から提言がだされ議論が広がっている府議会の状況が報告され、財政悪化の原因究明、府民生活を守るための財政再建をめざしとにも奮闘しようと呼びかけられました。各団体の決意表明として、大阪私学助成をすすめ

### 5・28団体交渉

## 「削減ありき」に終始

### 「PT試案」の撤回を求める

5月28日、府労組連、府職労は「財政再建プログラム試案」に基づき提案された人件費削減の問題について、団体交渉を行いました。マスコミが入り「公開」という新たなたまたかの場面のもと、当局の「無責任な態度」を厳しく追及し、削減ありきの「試案」の撤回を強く求めるとともに、府民・職員の生活を守りながら財政を再建する方策をともに考えていくことを求めました。

(詳細は「府労組連ニュース」参照)



府政の「限界」を強く感じる団体交渉となりました。

平井府職労委員長は、当局の「1、100億円削減ありき」の姿勢について、自治体問題研究所の試算や府議会各会派の提言などが出されている状況のもと、「PT試案」に固執せず複数の試案を府民に提示し十分な議論を行うことを求めました。この間くりかえし強行されてきた人件費カットで職員の生活は最低水準

にあることを訴え、これ以上の削減は認められないことを強調し、提案内容が「懲戒処分」に匹敵するものであり、最高裁判決で賃金カットは「高度の合理性」求められるが、大阪府の財政状況(赤字団体ではないし、なることも予想されない)のもとで「高度の合理性」がないことを指摘しました。非常勤職員の報酬の二割にふれ「組織の下

ツプとして人件費削減は最後と認識しているが財政再建が先だから理解してほしい」とする一方で、マスコミ等に府職員は破産会社の社員だから賃金の削減は当たり前かのような発言を繰り返す橋下知事の言動を厳しく批判しました。

当局は私たちの厳しい追及、指摘に対し、同調する発言をしながらも「削減は知事の判断」とかたくなに削減ありきの「PT試案」を守る態度に終始しました。5兆円にまで膨れ上がった借金の原因の究明と抜本的な対策ができない橋下

## 遊歩道

小林多喜二の小説『蟹工船』が3月から5万7千部増刷されるなど大ブームに

なっています。私は高校生時分『蟹工船』を読みましたが、過酷すぎる労働者の実態に気持ちが悪くなりました。▼「蟹工船」は実際におこった事件を題材に書かれています。1926年に北洋漁業の蟹工船漁業のなかで起きた虐待事件。蟹工船の労働条件はさまざま、不潔な船内と粗末な食事、連日の長時間・過密労働による病死や、絶え間のない監視と虐待が当たり前の奴隷労働でした。監督たちの虐待が激しく、脱走した労働者が監督たちに鉄の蟹かきで半殺しにされました。それがきっかけとなり自然発生的なストライキが起きました▼大ブームの背景には、ワーキングプアといわれる「働く貧困」層が増大するなど、不安定な労働者を大量に生み出した国政の悪政に対する怒りがあると思います。派遣労働者・非正規雇用の実態は、虐待・暴力の程度はさすがに『蟹工船』の時代とは違いますが、病気で休んだら「即刻解雇」されるなど、労働者の権利は『蟹工船』と変わらないのではないのでしょうか。こんな状態を変えるためにも労働組合がその力を発揮する時代だと強く感じます。(K)